

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	リサーチツールとしての英語		
英文授業科目名	English As a Research Tool		
開講年度	2006年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-情報工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報工学専攻		
担当教官名	佐藤 美弥子		
居室	東1-615		

公開E-Mail	授業関連Webページ
satoh@cs.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>研究に必要な英語力とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> &#61548;文献を正確かつ迅速に読みこなす読解力 &#61548;理路整然とした論文を、単純明快な文章を論理的に構築することによって、書く能力 &#61548;論文を口頭発表する際に、聴衆に応じて説明の難易度を調整するだけでなく、パワーポイント等を介して紹介するデータを再編集するなど、相手の理解の徹底を図るプレゼンテーション能力 &#61548;質疑応答の際、建設的な遣り取りへと導くには、質問・疑問の内容を即座に把握し、時には言葉を替えたり、時には説明を加えたり、臨機応変に対応する必要があるが、そのための聴解力と発言力 <p>から成る。上記の諸能力を総合的に作動させられるようになれば、英語を a research tool として掌握したと言える。</p>

【前もって履修しておくべき科目】

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
handouts

【授業内容とその進め方】

本授業では、先ず、中学・高校と「丸暗記」を余儀なくされた英語学習を、現象の背後に在る「理由」に眼を向けさせることで、「理解」に基づく「運用」へと変質させる。

次に、英文も、和文同様、話し手が話す順序で、書き手が書く順序で、組み立てられているのであるから、聴き手も読み手も、その順序に従って聴き読むことのみ、文章を正確に、かつ迅速に、理解できる、という考え方にに基づき、書かれた文章のみならず話された文章をも素材とし、書き手、話し手の思考過程を辿る訓練を繰り返すことで、「精読」と「速読」という一見矛盾する技術を同時に獲得させる。

加えて、未知の英単語や英語表現と遭遇した時に、既知の情報から「自力で」類推できるよう、「語源」や「前置詞」「動詞の個性」などに着目し、今まで何の脈絡も無く集積した断片的情報を、システムティックに整理統合し直させる。そうすれば、受講生が、将来、発見・発明する——世人にとっては未知なる——事物ですら、英語で表現できるようになる。

以上のように、本授業では、主として「文献を正確かつ迅速に読みこなす読解力」と「理路整然とした論文を、単純明快な文章を論理的に構築することによって、書く能力」の養成に努めるが、同時に、「プレゼンテーション能力」と「質疑応答力」の開拓にも着手する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席(欠席回数が総授業回数の三分の一を越えると失格)、授業中の活動、提出物、期末試験(もしくは課題)を成績評価の対象とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業終了後が不都合な場合は、担当教員と学生双方に都合のよい日時。

【学生へのメッセージ】

【その他】